

※※2016年4月改訂（第4版）

※2009年9月改訂

日本標準商品分類番号

8 7 2 7 3

根管消毒剤

※ヨード・グリセリン 歯科用消毒液「昭和」

IODINE GLYCERIN DENTAL DISINFECTANTS “SHOWA”

（日本薬局方 歯科用ヨード・グリセリン）

※規制区分：劇薬

貯法：遮光、密栓して室温保存

使用期限：5年（外箱・ラベルに表示）

※承認番号 22100AMX01596000

※薬価収載 2009年9月

販売開始 1956年5月

再評価結果 1982年8月

【禁忌（次の患者には使用しないこと）】

本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

※【組成・性状】

有効成分	1 mL中	有効成分	1 mL中
（日局）ヨウ素	100mg	（日局）硫酸亜鉛水和物	10mg
（日局）ヨウ化カリウム	80mg	（日局）グリセリン	0.35mL

〈製剤の性状〉

本剤は暗赤褐色の液で、ヨウ素のにおいがある。

【効能又は効果】

口腔粘膜（歯肉）及び根管の消毒

【用法及び用量】

適量を綿球又は綿繊維につけ、局所に貼付する。

【使用上の注意】

1. 相互作用

併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名	臨床症状・措置方法
水銀剤	ヨウ化水銀が発生するおそれがある。

2. 副作用（頻度不明）

過敏症 発疹、口腔粘膜び爛等の過敏症状のあらわれることがあるので、このような場合には投与を中止すること。

3. 適用上の注意

歯科用にのみ使用すること。

※【薬効薬理】

ヨードグリセリンは、ヨウ素の殺菌消毒作用^{1), 2)}と硫酸亜鉛水和物の防腐収れん作用^{1), 2)}を期待して配合したものである。また、ヨウ化カリウムは水に難溶のヨウ素を溶かす目的に用い¹⁾、グリセリンはヨウ素の局所刺激を緩和する目的に用い^{1), 2)}。

※※【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：ヨウ素 (Iodine)

原子式：I

原子量：126.90

性状：灰黒色の板状又は粒状の重い結晶で、金属性の光沢があり、特異なおいがある。ジエチルエーテルに溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けやすく、クロロホルムにやや溶けにくく、水に極めて溶けにくい。ヨウ化カリウム試液に溶ける。常温で揮散する。

一般名：ヨウ化カリウム (Potassium Iodide)

分子式：KI

分子量：166.00

性状：無色若しくは白色の結晶又は白色の結晶性の粉末である。水に極めて溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。湿った空气中でわずかに潮解する。

一般名：硫酸亜鉛水和物 (Zinc Sulfate Hydrate)

分子式： $ZnSO_4 \cdot 7H_2O$

分子量：287.55

性状：無色の結晶又は白色の結晶性の粉末である。水に極めて溶けやすく、エタノール(99.5)に極めて溶けにくい。乾燥空气中で風解する。

一般名：グリセリン (Glycerin)

分子式： $C_3H_8O_3$

分子量：92.09

性状：無色透明の粘性の液で、味は甘い。水又はエタノール(99.5)と混和する。吸湿性である。

【取扱い上の注意】

衣類に付いた場合は、水で十分に洗い落した後、チオ硫酸ナトリウム溶液を用いれば脱色できます。

【包装】

20g

※【主要文献】

- 1) 第十五改正日本薬局方解説書 (廣川書店)：C-4522～4526, C-4497～4502, C-4675～4678, C-1148～1152(2006)
- 2) 小椋秀亮, 小倉保己編：第2版現代歯科薬理学 (医歯薬出版) 561～562 (1993)

※※【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

昭和薬品化工株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋二丁目17番11号

TEL：0120-648-914

FAX：03-5579-9592

〈受付時間〉9：00～17：30 (土・日・祝日・当社休日を除く)

※※



製造販売元

昭和薬品化工株式会社

東京都中央区京橋二丁目17番11号

65JGO-16TA